

子どもの心によりそうことの大切さ

くるみの木 教育研究 サライ美奈

1. 保育はシンプルなもの

- ・目の前の子どもの発達を見極めて関わる、見守る。
- ・子どもが生きていくために必要なことを伝える、育てる。

2. 子どもの何に寄り添うのか？

過去に

—成長過程に

—子どもの家族の歴史に（家族の歴史は変えられない。親も変えられない。
共感できない場合でも、それを理解することはできる）

現在に

—目の前のありのままの子どもに

—目の前のありのままの家族に

未来に

—子どもが進んでいく社会・環境を見据えて、そこで生きていく将来の姿に

3. 子どもの将来に必要なことは？

- 自分自身を知る（すべての出発点）
- 一人・環境と共に生きる力
- 社会の中で生きる力

4. 子どもの心によりそえる環境＝子どもが安心・安全を感じられる環境

- ・一人一人の生理的欲求にあった日課
- ・わかりやすい保育環境（空間づくり、遊具の配置、大人の動き、など）
- ・十分な活動のできる環境（屋外・室内共に）
- ・一つ一つの活動に十分な時間
- ・自分を一人の人間として尊重して関わってくれる大人の存在
- ・お互いを人間として尊重しあえている大人同士の関係